

# 多賀地区の未来のために 地域みんなで前進していく

## 課題は横のつながり

令和元年に行われた、地域住民と市長が直接意見交換をするタウンミーティング。これをきっかけに多賀地区の地域づくりについて考えるようになり、西条市が推進する地域自治組織の設立に向けて活動をスタートしました。コロナの影響がありながらも、これまでできる範囲で話し合いを進めました。まず行ったのは、

老人会・婦人会や愛護班などが抱える悩みや地域の困りごとの掘り起こし。そこで見えた大きな課題は「横のつながりの薄さ」でした。いろいろな団体がありますが、似たようなことをやっていたり、役員の負担が大きかったり……。だからこそ地域自治組織を立ち上げ、困りごとを整理することで、組織と地域の両方の課題を解決していきたいと考えました。

初めは、自治会をはじめ地域の各団体の代表だけが集まり、話し合いを行っていました。途中からはもっと多様な意見を聞こうと、地元事業者にも参加してもらうことに。回数を重ねていくことで、方向性も見えてきて、会の雰囲気も良くなり、いい流れになっていくと思います。話し合いを進めていくうえで、大切にしているのは、各団体が同じ目標に向かうこと。皆さん、地域を良くしたいと集まってくれているので、一つの団体も取りこぼすことがないように、会の運営や進行を心掛けています。

多賀・未来づくり準備会のメンバーは29人。  
今回はメンバーの中から6人にインタビューしました。

※多賀地区は準備組織



## 「顔」が見える地域に

今年、試験的に実施しようとしたのがイベントの統合。多賀地区では夏に、盆踊りとたがっこフェスティバル、似たようなイベントを別々に開催していました。イベントを統合する狙いは、団体の負担軽減と世代間交流を図ること。残念ながらコロナの影響で実現できませんでしたが、来年はみんなで助け合って成功させたいです。

地域の課題は、地域のことを知っている私たちにしか分からないんですよ。災害など「いざ」というときに大事になってくるのは住民同士

のつながり。お互いの顔を知っているとという関係づくりです。人口減少や少子高齢化が進む中、地域に住む人々で課題を解決していく地域自治組織は、これから本当に重要になってくると思います。

7月には地域自治組織の準備組織として「多賀・未来づくり準備会」を発足しました。団体同士の横のつながりを強化することで、一つ一つの課題を解決していきたいですね。地域づくりにゴールはないと思っています。常に前進して、みんなで会を生かす。この会を中心に他の模範となるような地域にしていきたいです。

## 特集

# ともに、ここで 市民主役のまちづくり

少子高齢化や人口減少が進む中、地域が抱える課題は多様化し、公共サービスだけでは、地域の暮らしを維持し続けることが困難。これからは、市民と行政が同じ目的を持ち、協力し合いながら、課題解決に向けた活動「協働のまちづくり」が必要不可欠です。地域の抱える課題は、地域のことを知っている自分たちで解決する。今月はそんな思いで、まちの未来のために活動する皆さんに話を伺いました。

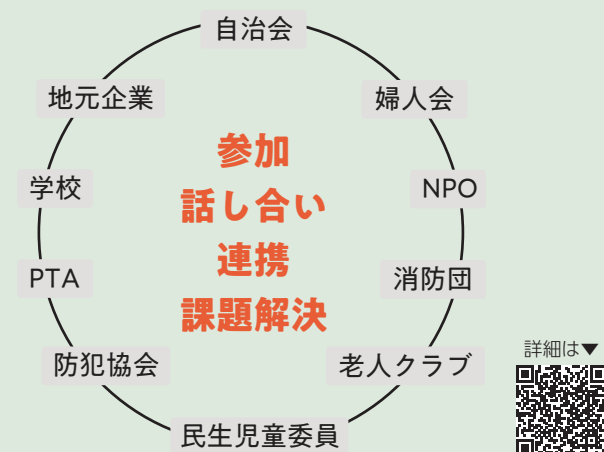
## 地域自治組織って??

「自治会や各種団体だけでは対応できない課題を解決」「自治会や各種団体の活動を支える・補完する」ために設立する組織。エリアは、日常的に顔が見える関係を構築できる小学校区や公民館の範囲。

### ▶現在取り組みを進めている地区

橘、大町、氷見、田滝、小松、国安、田野、多賀、徳田（取り組み状況などは市ホームページをご覧ください）

### 地域自治組織イメージ



▲座談会の参加者数は初回から2倍に。熱い議論が行われます





市民活動をサポートする！  
NPO法人西条まちづくり応援団  
(市民活動支援センター)

戸田聖子さん



わがまちを美しく！  
禎瑞フラワーサロン  
(まち美化パートナー)

石川比登志さん

### Case 3

## まちを良くしたい その思いに寄り添い、伴走する

### 団体の思いを実現

市民活動支援センターでは市民団体の活動支援や協働の推進を目的に、相談や情報提供など、市民がやりたいことを応援しています。登録団体も年々増え、現在は115。活動の幅を広げてもらうために、団体さん向けに動画やインスタ、チラシ講座なども実施しています。

相談が業務の中心ですが、その際に気を付けているのは、相手のやりたいことをしっかり把握すること。活動する方は積極的な方が多いんですけど、その分、悩みも多いんですよ。もちろん皆さん地域のために活動していますから、その気持ちをはっきりとくわけにはいかない。そんな人たちに真剣に寄り添い、解決できたときの「ありがとう」という感謝の言葉は、私たちのやりがい、そして皆さんのために働く大きな支えとなっています。

最近ではコロナの影響で、モチベーションが低下している団体が多くなっています。イベントなど、活動で

### Case 2

## 禎瑞で迎える四季折々の花 子どもらにも喜んでもらいたい

### 協力して作り上げる自慢の花壇

グループができたのは平成13年ころ。メンバーの高齢化もあって世代交代ということで、私は4年前に加わりました。目的は環境保全で美化をしていこうと、メンバー27人で、主に公民館の隣の石井記念公園の周りの花壇を管理。花壇は距離が長いので、それぞれが持ち場を決めて、植え付けや水やりをしています。ほかにも空き缶拾いなど、地域の美化活動に努めています。

苗は市から提供してもらい、グループ内で話し合い、四季折々の花を植えています。管理を生半可にしたらずすぐに草むらになるんです。花壇に花がない状態にならないようには気を付けていますね。

この辺には学校や保育園があるんで、子どもらが通学のとときに花を見て、よく声を掛けてくれます。そんな姿を見ていると、元気をもらえますし、活動のモチベーションも上がります。子どもは地域にとって宝ですから。花壇を見てもらうこと

で、少しでも花にも興味を持ってもらえたらいいですね。

### 活動が地域の活性化に

私らにとってボランティア活動は「楽しみ」の一つ。花が咲いて、きれいな状態を維持する。メンバー同士、一喜一憂しながら、活動を楽しんでいます。地域の方も「きれいやね。次は何植えるん？」って楽しみにしてくれています。地域外の方も見に来てくれて、本当に励みになります。

継続していくことで、だいぶ花壇として見やすくなったかなと思います。ここに来たらきれいな花がある。そういう環境を持続させる団体でありたいですね。きれいな花壇を見てもらうことで、地元である禎瑞に誇りや愛着を持ってもらい、まちの活性化のきっかけになればうれしいですね。そのためにも、後継者も見つけながら続けていきたいです。今後は、子どもらと花について勉強できる機会も設けていきたいですね。

### 住んで良かったと思えるまちに

最近では高校生なども巻き込んだ活動にも力を入れています。今、私たちがまちのためにやっていることって10年先や20年先の西条を作っていくことなんですよ。そのときの中心になるのは今の高校生や中学生。ボランティアなどに学生を巻き込み、そこで出る意見などを大切にしていきたいですね。

「地域のために何かしたい」と思

っているけどどうしたらいいかわからないことが多いと思います。初めは勢いがあっても継続って難しいんですよ。私たちはそんな方々を全力でサポートします。これから何かを始めたいなど、些細なことでも構わないので、まずは気軽にセンターへお越しください。

### 市民活動支援センターって??

市民と行政が一体となってまちづくりや地域課題の解決、地域福祉の向上などに取り組む「協働のまちづくり」の拠点。防災や子育て支援、環境保全などさまざまな分野が登録団体として活動。



詳細は▼  
QRコード



▲日ごろの活動発表など、登録団体の皆さんと交流会



▲花壇の長さは約100m。手分けして管理や植え付けを行います

### まち美化パートナー制度って??

環境美化意識の高揚と、快適で美しい地域環境づくりを推進することを目的に、市民と行政が互いに協力し、道路や公園、河川などの公共施設をボランティアで環境美化活動を行う。現在は市内で45団体が活動中。



詳細は▼  
QRコード